




第45号
平成29年3月
発行
彩の国いきがい大学
校友会連絡協議会

大宮盆栽村は、さいたま市北区南部の盆栽町に位置し、全国でも屈指の盆栽村として知られ、今や世界各地から観光客が訪れるようになりました。この盆栽村は、大正14年盆栽業者と盆栽愛好家が集まって開村し、最盛期には30軒ほどありましたが、現在では5軒を数えるのみとなつてしまいました。その中の一つ「藤樹園」は、私の父浜野元介によつて、昭和7年開園しました。

私は、大学を卒業後2年間民間企業で過ごし、「藤樹園」に25歳の時に弟子入りしました。父には「技術は教えてもらうのではなく、自分でも努力して盗め」と親子であつたためか他の弟子以上に厳しく躰けられたように思います。また、植物への接し方として「自然に逆らつてはいけない、自然の良いところを引き出せ。植物はものを言わないから、自分で見て、感じ取つて、それぞれの木の個性を出せ、個性を活かせ」と教えられました。「例えば、水も肥



プロフィール

浜野 博美氏 略歴
昭和12年 埼玉県生まれ
昭和36年 早稲田大学卒
昭和38年 保険会社勤務を経て父(元介)の弟子入り
昭和41年 藤樹園盆栽教室開く
昭和56年 大盆栽まつり実施 34回を迎え「市恒例行事」となる
平成22年 大宮盆栽協同組合 理事長
現在:「第8回世界盆栽 in さいたま」実行委員会 副委員長
会場:さいたまスーパーアリーナ
日程:平成29年4月27~30日
さいたま市在住 79歳

料も貰えない、厳しい自然環境に生える山の木と人里に生える木。同じ鉢に植えることで、それぞれの木の『生き様』が浮かびあがりま

す。」厳しい自然環境に生る山の木と、旅先で目にした風景が、ひらめ

盆栽に「美意識」を求め50年

大宮盆栽協同組合理事長 浜野 博美

への洞察力が盆栽に昇華され、小さな鉢の中に、盆栽を手がける者は、そこに 自分の「美意識」を表現するので

す。昭和41年藤樹園は、盆栽教室を始めました。「技は盗むもの」の時代に現在のカルチャーセンターのような教室を始めたのは、日本で当園が最初です。この50年間にこの教室や藤樹園で学んだ人は、何千人もいます。現在も延べ200人ほどが在籍し、毎週40人位が盆栽を学んでおり藤樹園は日本盆栽教室連盟の本部にもなつてい

ます。昭和59年に私は、より多くの人に盆栽を見てほしいと「大盆栽まつり」を企画し、平成29年は34回目を迎え、今では、

外国からたくさんのお客さんがいらつしやる「世界盆栽大会」は、盆栽が日本人に見直されるきっかけになればと期待しています。

平成20年には「大宮の盆栽」がさいたま市の伝統産業に指定されました。

今後とも、未完成であり続ける盆栽に対して、自分の美意識を表現し続けて参りたいと考えています。



大盆栽まつり

一年を振り返って

日々新たなところで！

県連協会長 中島武久



「光陰矢の如し」月日の経つのは早いもので、まもなく新年を迎えますが、会員の皆様におかれましては、日々お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成二十八年度は、県連協の三大事業であります「社交ダンスの集い」、「グラウンドゴルフ交歓大会」そして「芸能祭」はじめ計画いたしましたすべての事業が、なんの事故・事件もなく無事終了いたしました。これも担当幹事校役員様のご努力と多くの会員の皆様の温かいご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。さて昨今、少子高齢化が叫ばれて久しいものがありますが、現在四人一人が六十五才以上の高齢者と言われており、国家予算は年金や医療などの社会保障費が膨らむ中、私達はどう生きていけばよいか、考えさせられるものがあります。

このような中であって、皆様ご承知のとおりまず第一は、心身ともに健康であることではないでしょうか。生物学的には年を重ねるごとに身体の衰えは生きるものの宿命であり、

いかにともしがたいものであります。先日、通勤電車に乗る機会があり、

社内は若い男女で混んでおりましたが、彼等の若々しい弾力的な身体とわが身との落差を目の当たりにし、これは必然的なものであり、彼等の、

そして日本の将来に幸あれと心の中で叫ばざるをえませんでした。私達には、豊富な経験と知識があり、どんな環境の変化にも対応できる柔軟性を、いきがい大学で学び、

養い、そして校友会活動等を通じて会得してきました。これからは、それらを基礎に日々新たなところで、健康に留意し、校友会の仲間達や地域の皆様と残された

人生を謳歌し、社会貢献活動はじめ諸活動に取り組みたいと思っております。結びに、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

社会貢献活動事例報告

赤い羽根街頭募金活動

浦和連協

赤い羽根街頭募金活動は今年度も十月一日（土）JR浦和駅東口で実施。各期から役員二十五名が参加し、一時間半街頭で呼び掛けました。浦和連協のこの活動は、平成六年から始まり今年で二十三年になります。当日は、天候が良くなかったこともあり、立ち止まってくれる人も少なく、募金は二万八千円でしたが、小さな子供さんから「頑張ってるね」と言われ、大変励みになりました。集まった募金は全額「さいたま市社会福祉協議会」へ納めました。また、十一月十六日に開催された埼玉県社会福祉大会で、募金運動に二十年以上継続し、活動が特に優秀と認められ、『共同募金運動七十年記念特別表彰』の優秀団体賞を受賞しました。

社会貢献活動は、いきがい大学の使命でもあり、これからも継続していきたいと考えております。

熊本地震義援金活動

四月十四日熊本県の熊本地方を震央とした大きな地震が発生。広範囲にわたり甚大な被害をもたらした。浦和連協では、この被害状況を受けて校友会員に義援金を呼びかけました。

その結果、五万三千元が寄せられ、義援金は、「日本赤十字平成二十八年熊本地震災害義援金」宛て送金しました。

被災地の皆さん頑張ってください。一日も早い復興を願っております。（浦和連協 倉兼 記）



熊谷SP文化公園の花壇整備

「花ボランティア」活動

熊谷連協



校友会のボランティア活動の一環で平成19年からスタートして10年を迎えました。

埼玉県熊谷スポーツ文化公園内の「花壇」(10区画)の花

植え・除草・水くれ等の活動を行っております。毎年5月から翌3月までの間、毎月第2・4水曜日が活動日で校友会員の情報交換の場として気楽に参加しております。年間14回の計画で参加者は、今年度第1回目(5月25日)は小雨でしたが197

名の参加を頂き、古株の除去を行い、春花植えの準備作業を行いました。今年度は12月まで活動日が雨等



で中止になった事はありません。

又「花ボラ」の作業前に今年からラジオ体操を取り入れています。

その他事務局からの連絡事項があれば、この場で会員さんに直接情報が行き渡るため役員さんは大変助かります。

夏休みには、お孫さんを連れて参加をしてください

もおり、和やかな雰囲気伝わります。

気楽に参加ができる「花ボラ」に是非遊びに来てください。



熊谷連協
広報部
塚田

「川越八幡宮境内清掃」活動

川越連協



川越学園38期校友会は事業の柱としてボランティア活動を掲げていましたが、一年目はユニセフへの募金二年目の今年には熊本地震災援金支援と、お茶を濁す程度の活動でした。

是非具体的な活動をしようと、清掃活動をしました。小江戸・川越の守護神として千年の歴史を持つ「川越八幡宮」の宮司様にお願いし清掃日を12月20日に決定。

当日13時、師走の忙しい時期に23名が集合。温かい穏やかなまさに清掃日より、参拝道・本殿裏の林の中



と2組に分かれて清掃開始。ご神木のある本殿裏は落葉が一面。参拝道組は、植込み

の中まで丁寧に落ち葉を拾い本殿裏の応援にまわる。

休憩をはさんで最後の仕上げ、参道周りのチェックと駐車場の清掃をして3時半に終了。

充実した清掃活動でした。12月の忙しい時期に、自由参加の形で案内したところ20名以上の参加を見ることができ手ごたえを感じました。

来年以降も是非続けていきたいと思っております。川越連協も社会活動部を発

足し充実していく予定です。



川越学園
38期校友会
戸井干城



「恒寿苑」、「久喜の里」など
老人ホーム慰問活動

鷺宮連協

鷺宮学園校友会のダンス連合の一部の方で「恒寿苑」や「久喜の里」など老人ホームへの慰問活動を行っています。

六月十八日は「恒寿苑」、十月二十四日は「久喜の里」、十二月十九日は「恒寿苑」と久喜市内の老人ホームへ慰問しました。最初にホームの代表者から挨拶を頂き、次に私達の代表挨拶後に得意なワルツやルンバなどのフォーメーションの披露に入ります。ホーム入所者の皆様は大変喜んで頂いております。それからホームの皆様と私達が懐かしのメロデー曲に合わせてダンスを踊ります。転ばせないようにゆつくりと注意しながらステップを踏みまします。車椅子の方は車椅子のままです。立ち上がれない方はそばでお話しをしています。この様に皆様と和気あいあいとダンスや会話を楽しんでいきます。

最後にホームの入所者全員とハイタッチをして、お別れをしています。



2015年12月の恒寿苑慰問風景



2016年12月の恒寿苑慰問風景

今年の春頃には新しく、老人ホーム「よろこびの里」への追加慰問を計画しています。

これからも社会貢献活動を積極的に行っていきます。

(鷺連協 校友会 兼澤 記)

都幾川の美化活動

東松山連協

東松山学園校友会連絡協議会では、市内を流れる都幾川の美化活動を行っています。

今年、東松山嵐山学園が開校したこともあり、東松山市の河川敷に加えて嵐山町の河川敷の部分も作業範囲として広げました。場所は、国立女性教育会館（ヌエック）下の学立女性教育会館から、下流の月田橋の先の鞍掛橋までの両岸です。距離にして2km弱です。毎年、春と秋の行楽シーズンは、右岸と左岸は別々にゴミ拾いを行っています。左岸は、比較的草丈の高い植物が生えている中での作業になり、慣れていないと大変です。

春は、菜の花が、背丈ほどにもなり、あたり一面に咲いています。周りから見るととても美しい光景です。菜の花の中をかき



分けての作業となりました。

今年から始めた

草藪の部分もあり

ますが、広い砂利の河川敷が広がっています。今年、雨の日が多く、川も増水し、河川敷も水没してしまいました。毎回、大きなゴミ袋で、20袋弱と袋に入らない大きいゴミを回収して、河川の美化に大きな成果を上げています。

手作りの団旗を作りました。いきがい松山29の幹事の手作りです。この団旗の下、今年も頑張つていききたいと思います。



(東松山連協校友会会長 青木 記)



「生きがい愛の会」の活動

伊奈連協

伊奈学園の卒業生には、卒業年度別の校友会のほかに、居住地域を基準とした組織があります。

彩央会、まろにえ会、いきがい愛の会、伊奈さいたま会、いきがいコスモス会、東部OB会の6団体が各地域を主体に活躍しております。

その中で、上尾、伊奈（A、IⅡ愛）地域に住んでいるメンバー約160名で構成されている「いきがい愛の会」の28年度の主な活躍を紹介します。

①5月22日（日）NPO法人「荒川の自然を守る会」の主導の下で、上尾、川越、川島の境にある、荒川と入間川が合流していた場所「三ツ又沼ビオトープ自然環境整備活動」を24名の会員の参加で実施致しました。



②10月16日（日）上尾市丸山公園において「第36回ふれあい広場」が開催されました。これは、障

害の有無を問わず市民の誰もが交流を図り、相互理解を深め、暮らし易い社会をつくる事を目的として毎年開催されています。

当日を含めて4日間の準備、撤収作業等があり、会からは延べ60



名の方々が参加協力しました。③11月27日（日）「丸山公園落葉清掃」実施致しました。

公園管理事務所施設長の挨拶・指示のもと、愛の会25名と他団体のメンバーとも作業分担を決めて3〜4人一組で、実施致しました。公園に散歩に来たお母さん、お子さんも元気に落ち葉拾いに参加していました。

④なお、平成27年度では、11月14日（土）「県民の日記念式典」に、住みよい地域社会をつくるため長年にわたり積極的な活動を続けたことに対し、県知事より「シラコバト賞」を受賞致しました。



（伊奈連協 宮島 記）

身体障がい者団体で ボランティア活動20年

春日部連協

春日部学園18期の金重洋子さんは、身体障がいの者の親睦・交流団体である春日部市身体障害者福祉会（以下、福祉会）で長年にわたってボランティア活動を行っています。

20数年前、義理のお母様（故人）が身体障がい者になって福祉会の会員となり、介助者として行事に参加したのがきっかけです。お母様の介助ばかりでなく、他の会員の方々の介助をしているうちに行事全般の手伝いもするようになっていきました。

また、平成24年から書道部の指導を行うようになりました。脳血管疾患を患った方もいます。半身不随のため車椅子の方、杖をついて歩く方も書道をしたいと望み参加しています。

左半身だけで姿勢を保ちながら左手で書くため、「一」「十」といった基本となる二文字を書けるようになるだけでも容易ではなく、数カ月から半年もかかることもあります。満足に書けない悔しさからか、涙を流して書いていることもあります。

それでも、金重先生の指導のもと根気強く書き続けています。



金重先生の指導は「褒める」「目標を持たせる」です。

「褒める」、一所懸命に努力している方には、褒めることが励ましの言葉になると思っているのです。 「目標を持たせる」、毎年一回発表会を行っています。金重先生の指導により皆さん、良い字が書けるようになっていきます。

（身体障害者福祉会理事・書道部 春日部学園18期 三浦忠能）

施設慰問活動

入間連協

入間連協では、ボランティア活動として、バーベキュー大会などの各期のイベントの際に、昨年春に起きた熊本地震への義援金をお願いし、事業団に寄付しました。また、十一月の入間連協の文化祭の際には、使った古い切手や書き損じのハガキを集め、埼玉県盲人老人ホームに寄付しました。また、各期で施設慰問などのボランティア活動を積極的に行っています。

ここでは、七期のボランティア活動を報告します。いろいろな施設への慰問を続けている七期のボランティア活動は、昨年十月は、三芳町の「三芳の森病院」の慰問でした。

参加メンバーは、七班を中心とし、六期の方や東松山学園の会員にもご参加いただき、総勢十五名です。お客様は、当病院の患者様約四十名。その日は、誕生会が催されていて、その席にお邪魔したものです。

一曲披露の唄と、会場全員での「ふるさと」などの合唱で会は始まり、その後フラダンス、ハーモニカ演奏や歌に合わせた踊りも飛び出しました。



三芳の森病院での慰問活動

(入間連協7期校友会)

た。また、女装三人によるマジック笑(ショー)では、職員のかたにも「体が浮くマジック」のお手伝いをいただき大いに盛り上がりました。バラエティーの富んだ演目に、会場の皆さんも存分に楽しんでおられました。約一時間の会でしたが、笑顔と笑いにつつまれた、楽しい午後ひとときを過ごせたと思います。今後も機会をみつけて、活動を継続していくとの事です。

特別イベント

「七タコンサート」

蔵連協

蔵連協は、本年度校友会活動の協調を図るため、昨年からは始めた「特別イベント」として「七タコンサート」を実施いたしました。本年も校友会会員の家族・友人及び近隣の人達等多数の人達に声をかけ、結果462名の参加者となり、昨年同様多数の参加を得られました。

第1部前半は、近隣の春日部学園が「南京玉すだれ」の友情出演頂



き、軽やかなリズムで会場の雰囲気気がパット明るくなり和やかさが広がり、後半では、清水マリさんの「トークむかし語り」鉄腕アトムの声は昔と変わらない声で語りかけて皆感動しました。

第二部は「音と友に」七タコンサート「フルート」「バイオリン」「ピアノ」そして「ソプラノ歌手」



高橋朋さんの美声が会場を魅了し、楽器の音色に会場全体が吸い込まれ又、会場とコラボがあり一段と盛り上がりました。演奏会の最後に、役員一同舞台上がり、おなじみの「四季の歌」と「今日の日はさようなら」を全員で合唱し閉幕となりました。

これからも一年ごと経験を積み上げて、皆さんに喜ばれる「特別イベント」にしていく予定です。

(校友会25期 増田 記)

公益財団法人
いきいき埼玉

彩の国いきがい大学校友会連絡協議会会員の皆様には、日ごろ会員相互の親睦を図りつつ、ボランティア等、社会参加活動に、格別のご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

本県では今、「シニア革命」を進めています。これは、まだまだ元気なシニア世代の方々が仕事やボランティアの国いきがい大学は、時代の変化に対応し、かつ安定的な運営を図るため、様々な機構改革を進めています。

うものでございます。さて、開設以来四〇年余りを経た彩の国いきがい大学は、時代の変化に対応し、かつ安定的な運営を図るため、様々な機構改革を進めています。平成29年度においても、通学の利便性を高めるため、春日部学園専攻

ては、会員相互の生きがいをさらに高め、その交流を活かして、地域社会の担い手として様々な活動に取り組みされるよう、大いに期待しております。結びに、貴協議会の益々のご発展と会員各位のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



会報四十五号の発刊に寄せて

公益財団法人 いきいき埼玉

理事長 茂木 皇 治

ティアをはじめ、文化や芸術、スポーツといった多様な分野で活躍できる枠組みをしっかりと作る、そうすることで、社会に支えられる側から社会を共に担う側に回っていただくという取り組みです。

卒業後も継続的にクラブ活動や班活動などに参加されているいきがい大学卒業生の皆様の活動は、「シニア革命」で目指す時代の要請にかな

課程の会場の移転や、「もう一度文学散歩科」や「健康元気科」などのニーズを踏まえたコースの設定を予定しています。

今後とも、県内にお住いの多くの高齢者の方に、魅力ある学園を提供できるように、充実を図ってまいりますので、引き続きお力添えをお願いいたします。

貴協議会会員の皆様におかれま



県花 さくらそう

◇平成28年度いきいき埼玉の主催事業実績◇

- ① 彩の国プラチナフェスティバル (いきいき創作展)
平成28年9月3日(土)から6日(火)
さいたま市プラザノース
部門：日本画 洋画 工芸 書 写真 文芸 応募出品540点 来場者2,905人
- ② 彩の国いきいきフェスティバル
平成28年10月30日(日)
埼玉県県民活動総合センター
県連協から6連協(熊谷、鷲宮、蕨、東松山、伊奈、春日部)が参加 来場者 約25,000人
- ③ いきがい大学第2回公開学習
平成28年12月26日(月)
大宮ソニックシティ 大ホール
第1部 アトラクション 二胡演奏家「張艶」による演奏
第2部 講演「歴史に学び、未来を読む」加来耕三(歴史家・作家)
入場者 1,697人 (在校生1,133人、一般564名)

県連協事業報告 いきがい大学第1回公開学習いきいき活動事例発表2題 平成28・07・12(火)

オカリナアンサンブル

東松山連協

「心に響け！オカリナの音色」
パチ・パチ・パチ・ブラボーッ！
大きな拍手と共に演奏を終えた私たち。本当に夢の様な舞台でした。

この度、公開学習のステージで、いきがい大学の先輩・後輩の方々の前で演奏する機会を戴きましたこと、大変嬉しく大感激でした。私たちは十二年前に『オカリナの澄み切った美しい音色に魅せられた』十八名の仲間たちが、倉林正義先生を講師にオカリナ演奏を通じて親睦を深めてきました。



聴衆2400名の前で一生懸命演奏

現在は八十名の仲間と活動しております。最初は「楽譜」を読むのも俣ならない私たちでしたが、先生のご指導のお陰で、今では、渡された「楽譜」を見て、直ぐに演奏が出来るまでに成長しました。

オカリナも「C管」「G管」「F管」と三種類のオカリナを使って、より深い・より幅のある・より美しい演奏が出来るようになりました。

私たちは、オカリナを始めたことで昔懐かしい歌等に触れ「日々の暮らしの中に音楽のある素晴らしさ」を再認識しました。「音楽」は、私たちを癒し・元気づけ・楽しませてくれます。私たちは、今回のステージで精一杯の心を込めて演奏させて戴きましたが、果たして皆様の心に響く演奏が出来たでしょうか！？

私たちの夢は「宗次郎の様に演奏し・ゆくゆくはNHKホールのステージで演奏する」ことです。

私たちは「仲間たちとオカリナを生涯の友として」オカリナに出会えた事に感謝しながら、これからも「夢」に向かって活動していきます。

秩父音頭をたのしむ会

熊谷連協

三十二期 志村英昭

私達「秩父音頭を楽しむ会」の誕生と現状をお話いたします。在学時代の顔合わせで皆はだんまりでした。

だが皆野町出身の方がいて秩父音頭の講演を聞きましようか、と切り出して下さいました。相談の結果、後日先生のご自宅に訪問ころよく快諾をいただきました。先生のお話を聞くといきがい大学へは何回も講演に行きました、というお話でした。残念ながら先生は二十八年春八八歳の生涯を閉じました。私達は自主学習勉強後、正調秩父音頭の講習会を知り秩父皆野町の講習会へ片道一時間かけて月一回ですが三年間通いました。その後ボランティア活動に目覚め熊谷市の民踊講習会を知り現在六年目ですが、直実節・熊谷まつり音頭・熊谷桜音頭・キヨシのズンドコ節を習得熊連協芸能祭としてボランティア等に励んでいます。

尚本年の事例発表会参加は寝耳に水の参加でありましたが初の大舞台での発表これが最初で最後クラブ員の中で生涯の語り草となるでしょう。



社交ダンスの集い

伊奈連協

10月7日、上尾総合運動公園体育館で、約300名の参加のもとで開催されました。

伊奈・春日部・浦和の各学園が幹事校となり、音響は藤・東松山、作曲成は鷺宮・熊谷の各学園が担当致しました。役員の人は、役員の人達は8時過ぎには会場準備等で入場され、9時には各学園毎に出演者の受付等を開始し、10時からは各学園(7学園)とわらびユニークダンス友の会による、フォーメーションリハーサルが短時間のなかで入念にチェックしていました。午後から各学園が学園旗を先頭に全員整列入場し、開会式が執り行われました。フリーダンス、フォーメーション、等でお揃いのダンス衣装を着こ



なし、軽やかなステップで潑刺とし、あの広い体育館を華麗な雰囲気包んでおりました。

20名程の車椅子を主体としたダンスグループがエーデルワイスの曲をフォーメーションで披露され、その流れの美しさに感銘を受けました。

フリーダンス、フォーメーション、ミキシングタイム、フォーメーション、トライアル、ラストダンスと長時間を支えられた役員の皆様、出演者の皆様お疲れ様でした。御礼申し上げます

(伊奈連協 宮島 記)



グラウンド・ゴルフ交歓大会

熊谷連協

平成28年10月28日

(金)第18回県連協GG交歓大会は熊谷・東松山学園が担当で改修なる熊谷スポーツ文化公園「くまがやドーム」で3年ぶりに開催、9学園から207名の選手が出場し、人工芝のコートを楽しみ苦しみました。



当日は曇天で肌寒い一日でした。開会式は中島会長挨拶・ご来賓の富岡熊谷市長・向佐財団理事にお言葉を頂き、始球式では富岡市長のホールインワン・ガッツポーズに会場は盛り上がりしました。

競技は10時にA・Bコート32ホールを一齐に廻り始め、前半16ホール午後16ホールを和気藹々と、日頃の成果を充分発揮していました。閉会式・表彰式後14時30分無事に終了しました。



大会開催にあたり、本部・県連協・熊連協・松連協・実行委員会等の皆様の、ご協力を頂き有難う御座いました。また、今後も「くまがやドーム」のご利用をお忘れなく。



(大会の概略は次の通りです)

- 優勝 田中 竹彦(川越) 54打
- 準優勝 滝澤源二郎(入間) 57打
- 三位 馬場一義氏(鷺宮) 57打
- ホールインワン(全体) 223本
- ホールインワン賞(指定) 29名
- ラッキー賞 51名



県連協グラウンド・ゴルフ交歓大会
運営委員長鈴木栄次

社会活動現場体験

久し振りに空が青く風が冷たい、今日は「社会活動現場体験」の日です。この活動を体験する私達十一名は「いきがい大学校友会ボランティア活動団体」各支部から参加した人達で我々の現場体験の受け入れを歓迎したのは「いきがい松山二十九」美化運動の人達です。感謝いたしません。今日、都幾川美化運動に参加するコンセプトは、家に閉じこもらず、外に一歩足を踏み出しお互いに喜びを共有しよう、そして、「いきがいのある生活をしようじゃないか」それにはまず我々が体験することです。



都幾川河川

私達現場体験隊は「国立女性教育会館」に集合、すでに「いきがい松山二十九」のスタッフの一人が私達を待っていた。すぐに現場に案内していただく「いきがい松山二十九」の代表より私達の紹介、清掃活動の注意点を聞き十時にスタート、都幾川に掛かっている学校橋から下流にある鞍掛橋まで一キロ程、色々なゴミがある。破れそうなビニール袋、太いビニールパイプ、鉄の建材、草むらの中で一生懸命にゴミを拾い疲れて汗がでる。スタート地点に戻った時、軽トラ一杯のゴミが集まった。スタッフが用意してくれたご馳走、銀杏の赤飯、焼き肉、美酒、おいしい、うれしい、「乾杯」。



(社会活動部 重田 記)

第五回芸能祭

実行委員長 春連協 鷹取 弘資
3月1日(水) 「第5回芸能祭」

が、蕨市民会館(七〇六名収容)に於いて実施されました。今回は、プログラムをメール添付で先行配信し、事前配布プログラムは少量にとどめさせて頂きました。当日。830部のプログラムを準備しましたが、ほとんど残ることなく、受付時の来場者チェック表で確認しましたら約770名の方が来場下さいました。今回故あって司会を春連協の高久ご夫妻が務めてくれました。ご夫妻での司会と言うのは、中々ないものだと思います。演目特性による進行上、昼食休憩が短く、午後の部に休憩を挟むなどイレギュラーなプログラムになりましたが、周りの皆様の助けもあって、スムーズな進行となりました。開会式では、中島大会長、頼高蕨市長、いきいき埼玉向佐理事のご挨拶を頂き、いよいよ公演・発表スタートです。各連協より推薦を受けた22チームが、出場さすが、選抜された各チームの熱演

振りに、観客の皆様からも惜しみない拍手が送られていました。私達蕨連協、春連協の実行委員は、中島会長の思いである「明るく元気に楽しく」を実現するため、「演じて楽しく」「見て楽しく」「支えて楽しく」を、目標に準備して来ました。無事終了した今、実行委員会メンバーと応援スタッフは、「支えて楽しく」を、実感し、ほっと致しましたが、演じて頂いたチームの皆様、「演じて楽しく」でしたでしょうか、見て頂いた方は、如何だったでしょうか・・・?

皆様のご協力感謝申し上げます。



作成幹事校 いきがい大学蕨学園
校友会連絡協議会